





イーサポートリンクは  
生鮮青果物のトレーサビリティを確立し、  
生活者の皆様に新鮮で安心な商品をお届けすることに貢献しています。

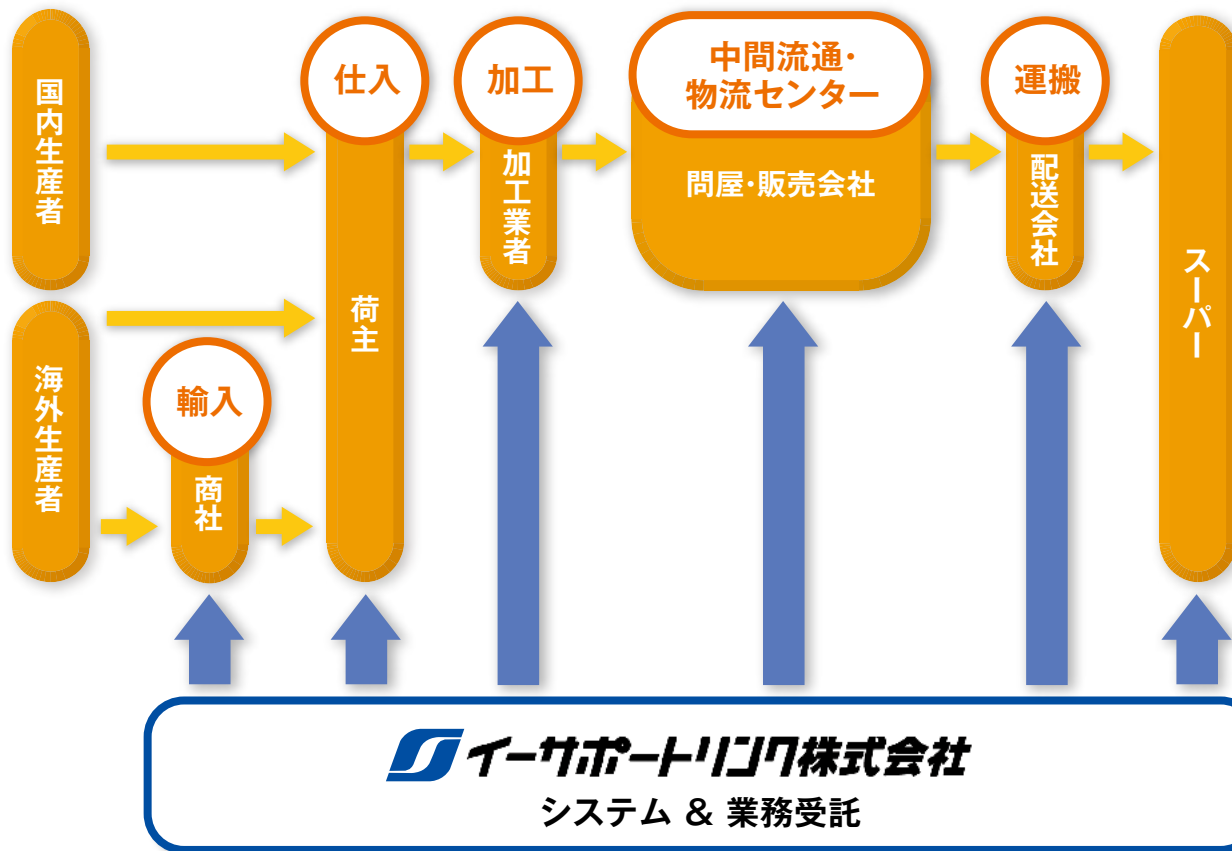
## CONTENTS

ビジネスモデル	2
トップインタビュー	3
連結財務諸表(要旨)／セグメント別売上高	7
株主広場	9
企業情報	10

# ビジネスモデル



当社は生鮮青果物流通に携わる全ての皆様にシステムと業務受託でお手伝いしています！



➡ 生鮮流通ルート    ➡ イーサポートリンクのサービス

注) この図解はあくまでイメージ図で、全ての取引がこの限りではありません。

## システム事業

生鮮青果物流通の全プロセスの情報をシステム管理し、物流・商流・情報流を一元管理しています。

## 業務受託事業

生鮮青果物流通における全ての業種に対してオペレーション業務を代行しています。

# 2009年11月期の決算概況と今後の事業活動について



株主の皆様におかれましては、  
日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
第12期「株主通信」をお届けするにあたり、  
謹んでご挨拶申し上げます。

代表取締役社長 堀内 信介

**Q1** 2009年11月期に大きな損失を計上しましたが、その経緯と理由を教えてください。また、その影響は2010年11月期以降も続くのですか。

**A** これまで当社は、小売・スーパー及びその取引先に対して提供する生鮮MDシステムの導入先確保に向けて、取り組んでまいりました。その結果、導入企業数も増加してまいりましたが、導入取引先数、データ件数等が当社想定よりも低い状況で推移し、相対的に導入費用が膨らみ、経常赤字となった次第です。

この状況に鑑み、生鮮MDシステムの将来の回収可能性を慎重かつ保守的に検討した結果、固定資産等の減損損失を計上することといたしました。

同システムに関しましては、2009年1月のシステムリリース

以降、小売・スーパー及びその取引先に対して新規導入先獲得に向けた活動を進めており、今後も導入企業数の拡充に努めてまいります。

2010年11月期以降は、2009年11月期中に、運用保守体制の抜本的な見直しを実行し、大幅なスリム化を実現しており、コストを大幅に縮小したことにより、今後の導入企業数の拡大は収益増加につながると考えております。2010年11月期は、安定的な利益の確保と、将来の成長に備えた導入先拡大の活動に注力し、黒字決算を目指して邁進してまいります。



## Q2 今後対処すべき課題と取り組みは何ですか。

**A** 生鮮青果物流通業界を取り巻く環境におきましては、今後、業界関連法令の改正等により、業界の構造及び顧客のニーズが変化する可能性があります。このような状況の中、当社グループの提供するサービスを業界標準として確立するためには、顧客のニーズを先取りした付加価値の高いサービスを他社に先駆けて提供し、積極的に市場シェアを獲得していくことに加え、早期の黒字化が必要不可欠であると認識しております。

当社グループは、特定顧客に対する売上依存度が高い傾向にありますが、今後、収益基盤の安定化と事業規模の拡大を図るためには、新規顧客の獲得が重要であると認識しております。そのためには、既存サービスの拡大だけに留まらず、新たに利便性の高い新規サービスを他社に先駆けて提供していくことが重要であると考えており、当社グループのコアビジネスであるシステムの開発及び業務効率化を積極的に行ってまいります。

また、コーポレート・ガバナンス体制、内部管理体制の強化につきましては、事業運営上の重要性がより高まってきております。今後、社員への教育、的確な体制・組織・規定などを随時整備・改定し、経営基盤をより強固なものにし、経営管理体制の強化に努めてまいります。



(イー君・サボ君は、当社ホームページの「バナナ物語」の中で紹介していますので、ご覧ください。)

## Q3 基幹ビジネスの現況を教えてください。

**A** 当社基幹ビジネスの要である、主要クライアント企業との関係は、良好に推移しており、今後とも各社との取引の維持・拡大に努め、事業基盤の安定化を図る所存です。当社は、当社グループの事業に賛同いただいたクライアント企業とともに中間流通事務の簡素化・標準化によるローコスト化を実現してまいりました。

近年の状況として、生鮮青果物流通業界は、消費量の低迷などにより厳しい状況で推移しております。このような状況から、各社中間流通コストの削減が必要となっており、当社も少なからず影響を受けております。

しかしながら、当社は、サービスレベルの向上、コスト削減や業務効率化などにより、引き続き収益確保に向けて邁進してまいります。



#### Q4 連結子会社:(株)農業支援の現況と今後の取り組みについて教えてください。

**A** 連結子会社:(株)農業支援においては、りんごを手始めに国産青果物への取り扱い強化を図り、生産者と小売・スーパーとの直接的なコミュニケーションがとれる国内青果物流通のビジネスモデルの構築を進めてまいりました。徐々にではありますが、販売先の拡大も進み、売上高が増加してまいりましたが、2期連続して赤字となりました。

2010年11月期においては、マーケットの状況等を見極め、りんご事業の強化と、販売業者との提携による仕入販売の確立で、(株)農業支援単体としての黒字化を目指してまいります。

〔(株)農業支援の事業は、セグメントでは「その他の事業」にあたります。〕

#### Q5 2010年11月期の業績予想と、事業の拡大・強化に向けた新たな取り組みについてお聞かせください。

**A** 近年の状況として、生鮮青果物流通業界においては、消費者の生活防衛意識から節約志向の高まりにより、価格競争が激しさを増すなど厳しい状況で推移していると考えております。

当社グループは、2期連続の純損失計上により純資産が減少しており、早期の黒字化、財務体質の強化に向けて邁進する所存です。

基幹ビジネスにおいては、安定的なサービス提供により安定収益を確保し、生鮮MDシステム及び連結子会社:(株)農業支援については、収益性改善に取り組んでまいります。

以上により、売上高43億73百万円、営業利益2億26百万円、経常利益2億7百万円、当期純利益1億96百万円を見込んでおります。

当社グループは、今後の着実な前進のため、大幅なコスト削減を実施しました。これにより2010年11月期黒字化への目途はたっていますが、それ以降の成長の足がかりにするため、組織運営の効率化及び協働体制を目的に、本部制からグループ制へ移行いたしました。全社営業を担う営業開発グループが、生鮮青果物流通業界の多様な顧客ニーズをつかみ、ソリューションサービス提供を進めてまいります。これらにより、業務執行の迅速化による経営基盤の強化・



安定化と業績の早期回復を目指してまいります。

また当社は、2010年3月にフレッシュMDホールディングス株式会社に対して第三者割当増資を実施することを決議しました。

割当先であるフレッシュMDホールディングス株式会社は、青果物の加工・流通に関わる「総合青果物流通」企業グループで、中心的な子会社である(株)フレッシュシステムは、バナナの加工を主とする果物・野菜の加工販売業であり、当社の主要顧客でもあります。加工場というインフラと当社のシステムサービス、事務代行サービスというインフラは親和性の高いものであり、当社の事業内容を知悉している会社であることから、本第三者割当先として最適と判断いたしました。

第三者割当による資本関係の強化により、より一層の関係強化を図ることで、当社の事業基盤を更に安定させ、また財務体質の健全化にも資すると判断したため、割当先として選定いたしました。

また、システム(ソフトウェア)を提供する事業の性格上、システム開発のために手元資金を厚めに保有することはビジネスチャンスに機敏に対応するための必要条件であり、今後の当社の企業価値向上、更には株主価値の向上に繋がると判断し、実施することといたしました。

資本を増強し足元を固め、来期以降の成長に備え、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

## Q6 最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

**A** 当社グループは2期連続赤字を計上しており、株主の皆様にはご心配をおかけしております。

2010年11月期につきましては、何としても収益を確保し、企業価値向上を図ってまいります。

配当に関しましては、経営成績及び財政状態並びに配当性向等を総合的に勘案し決定することとしております。しかしながら、昨今の経営状況に鑑み、当面は内部留保を優先させていただき、今後の経営成績等に応じて検討してまいります。

また、IR活動を通じて当社グループの事業運営に対する理解の促進を図り、株主・投資家の皆様との信頼関係の構築に努めるとともに、経営の透明性の向上を図ってまいります。

今後ともなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



# 連結財務諸表 (要旨) / セグメント別売上高

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第12期 (当期)	第11期 (前期)
	2009年11月30日現在	2008年11月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	1,138	1,564
固定資産	1,241	3,217
有形固定資産	225	243
無形固定資産	767	2,709
投資その他の資産	249	265
繰延資産	6	0
<b>資産合計</b>	<b>2,387</b>	<b>4,783</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	1,103	1,370
固定負債	687	376
<b>負債合計</b>	<b>1,790</b>	<b>1,746</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	594	3,037
資本金	2,471	2,471
資本剰余金	370	1,233
利益剰余金	△ 2,248	△ 667
評価・換算差額等	△ 1	△ 0
少数株主持分	3	—
<b>純資産合計</b>	<b>596</b>	<b>3,036</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>2,387</b>	<b>4,783</b>

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第12期 (当期)	第11期 (前期)
	自2008年12月 1日 至2009年11月30日	自2007年12月 1日 至2008年11月30日
売上高	4,291	4,414
売上原価	3,622	3,458
売上総利益	668	956
販売費及び一般管理費	1,335	1,166
<b>営業損失(△)</b>	<b>△ 666</b>	<b>△ 209</b>
営業外収益	10	8
営業外費用	28	21
<b>経常損失(△)</b>	<b>△ 684</b>	<b>△ 223</b>
特別利益	34	31
特別損失	1,800	332
税金等調整前当期純損失(△)	△ 2,451	△ 523
法人税、住民税及び事業税	8	13
法人税等調整額	—	108
少数株主損失(△)	△ 16	—
<b>当期純損失(△)</b>	<b>△ 2,443</b>	<b>△ 645</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	第12期 (当期)	第11期 (前期)
	自2008年12月 1日 至2009年11月30日	自2007年12月 1日 至2008年11月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	168	300
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 416	△ 821
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 45	655
現金及び現金同等物の増減額	△ 293	133
現金及び現金同等物の期首残高	872	738
現金及び現金同等物の期末残高	579	872





## 連結株主資本等変動計算書

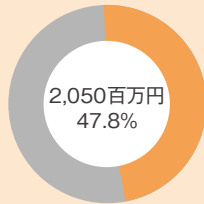
自2008年12月1日 至2009年11月30日

(単位:百万円)

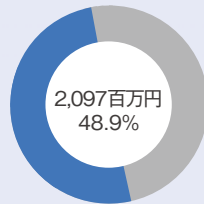
	株主資本				評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2008年11月30日 残高	2,471	1,233	△ 667	3,037	△0	△0	—	3,036
連結会計年度中の変動額								
資本準備金の減少による欠損填補		△ 862	862	—				—
当期純損失			△ 2,443	△ 2,443				△ 2,443
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額(純額)					△0	△0	3	2
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 862	△ 1,580	△ 2,443	△0	△0	3	△ 2,440
2009年11月30日 残高	2,471	370	△ 2,248	594	△ 1	△ 1	3	596

### システム事業

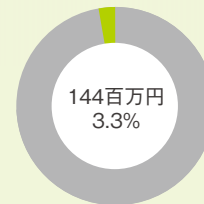
売上高構成比



### 業務受託事業

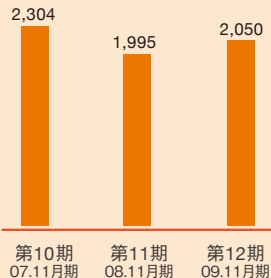


### その他の事業

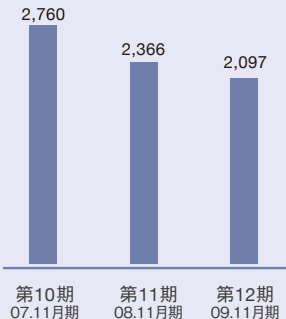


売上高推移

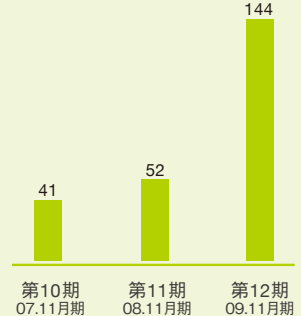
単位:百万円



単位:百万円



単位:百万円



- イーサポートリンクシステム
- 生鮮MDシステム

### 【代行業務】

受注/計上/需給調整/手配/  
売掛管理/買掛管理/出荷付随/入力

### (株)農業支援の事業

## IR／PR活動を積極的に展開

当社は、経営の透明性を高める情報開示をはじめ、機関投資家向け説明会の開催や、シンポジウムへの参加など、積極的に推進しています。

## ■ 2009年8月4日(火)

## 機関投資家向け「第2四半期決算説明会」を開催

## ■ 2009年8月25日(火)～26日(水)

## 「アグリフードEXPO2009」(主催：(株)日本政策金融公庫)に出展

『アグリフードEXPO2009』(於：東京ビッグサイト)は、プロ農業者たちの国産農産物・展示商談会を目的に開催されました。

当社は、「JGAP認証農場合同商談会」内にブースを設け、事業説明やプレゼンテーション、生産者の方々との商談を行いました。



来場者のみなさんに、当社システムの紹介を行っています。

## ■ 2009年11月25日(水)～27日(金)

## 「アグロ・イノベーション2009」(主催：(社)日本能率協会)に出展

収穫から売場までの製品・サービス・情報が一堂に集結する専門展示会「青果物流通・加工技術展」にブースを設けました。

約3万人の来場者があった中、当社は、国内生鮮青果物流通における問題解決策やサービスの提案などを行い、新規顧客の開拓に積極的に取り組みました。



## 株主の皆様のお声を聞かせてください

当社は、株主の皆様からの貴重なご意見をお聞かせいただき、今後の経営やIR活動に反映させるため、今回も「株主さまアンケート」を実施させていただきます。

お手数ではございますが、同封のアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。



# 企業情報 (2009年11月30日現在)



## 会社概要

商号	イーサポートリンク株式会社 (英文商号 E-SUPPORTLINK, Ltd.)
本社所在地	東京都豊島区高田二丁目17番22号
設立	1998年10月6日
資本金	2,471百万円
従業員数	276名(連結) 264名(個別)

## 株式の状況

発行可能株式総数	107,000株
発行済株式総数	29,097株

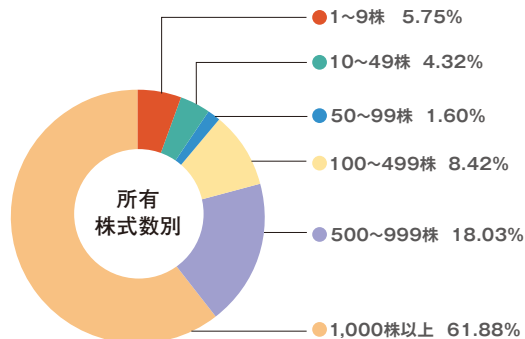
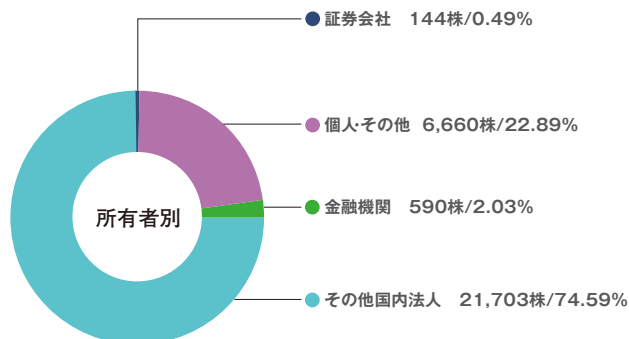
## 役員 (2010年2月25日現在)

代表取締役社長	堀内 信介
取締役	松丸 正明
取締役	仲村 淳
社外取締役	村井 勝
社外取締役	下戸 章弘
常勤監査役	伊藤 日出夫
監査役	佐藤 智之
監査役	吉田 茂

## 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ケーアイ・フレッシュアクセス	4,333	14.89
フレッシュMDホールディングス株式会社	3,012	10.35
全日本ライン株式会社	1,956	6.72
伊藤忠商事株式会社	1,883	6.47
ピー・エス・アセット・ホールディングス株式会社	1,883	6.47
株式会社上組	1,667	5.72
東洋埠頭株式会社	1,111	3.81
オリックス株式会社	1,111	3.81
株式会社フレッシュプロデュースドットコム	1,050	3.60
ファルコン投資事業組合	978	3.36

## 株式分布状況



## 株主メモ

事業年度	毎年12月1日～翌年11月30日
定時株主総会	毎年2月下旬
単元株式数	1株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社 になります	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話 お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

**公告方法** 電子公告(当社ホームページ)  
ただし、やむを得ない事由によって、  
電子公告による公告をすることが  
できない場合には、日本経済新聞に  
掲載して行います。

### 「株主優待」のご案内

毎年5月31日現在の株主名簿に記載  
または記録された1株以上保有の株主  
様を対象とします。

青森県産りんごの100%ストレートジュース

- ・1株～9株 1リットル × 6本
- ・10株以上 1リットル × 12本



**イーサポートリンク株式会社**

〒171-0033 東京都豊島区高田二丁目17番22号  
TEL: 03-5979-0666 FAX: 03-5979-0667

当社ホームページでも  
IR情報をご覧いただけます。  
<http://www.e-supportlink.com/>

当社では、『株主通信』ではお伝えしきれない情報を、  
ホームページにて開示しています。株主・投資家の  
皆様に向けて、決算情報、決算説明資料、PR情報  
など、タイムリーな情報提供を心がけております。  
ぜひ、ご覧ください。



トップページ

最新のIR情報を随時更新し、  
ご紹介しています。



この冊子は環境保全のため、大豆油インキとFSC認証紙を使用しています。